

# Professor on TV ③ 特集

## 知的バラエティー番組 に出演中!

「トリビアの泉」「所さんの目がテン!」「世界で一番受けた授業!!」……。

日本人がもともと勉強好き、だから雑学大好きなのか、

テレビはクイズ仕立ての番組ばかり。

なかでも「知的バラエティー番組」なるジャンルが当世人気が高い。

かくて、大学教授らの出演がめっぽうふえた。

わが中央大学の先生たちは、と調べてみたら……。

学生記者 大池夏未(総合政策学部2年)+池内真由(法学部1年)+岩倉彩(商学部1年)

### 渡部芳紀教授が……へえへえ

——文学部・渡部芳紀教授(国文学)は「トリビアの泉」に出演した。

へえへえへえ

——実際に、渡部教授に話を聞いた。

「はい、本当です。トリビアの泉に出演しました。走れメロスが作者の太宰治が借金を返すために走り回ったことから生まれた」のトリビアの解説者として出演しました」

——本当だった!

へえへえへえへえ

「へえへえ」でおなじみのフジテレビ系人気番組の「トリビアの泉」。生きていくうえでは、ためにならない、ムダ知識 Trivia を提供する番組だ。もともと深夜でやってきた番組が人気上昇に伴い、ゴールデンタイムに移った。この夏に放送されたフジテレビ25時間テレビでも特別コーナーが作られるなど、開始からだいぶ経った今も、高視聴率を誇っている。

### ビデオ再現

渡部教授の出演は、昨年6月16日

(関東)だった。

小説『走れメロス』は、殺されることが分かっているのに、約束を守って人質として残しておいた親友のもとに戻り、人間の真実の姿、友情愛を描いた作品。王にも赦されて、赤い絨毯を踏み進むくんだり、《メロスは羞恥した》の一行が鮮やかに思い出されたりする。

それが、太宰の極私的日常生活と二重写しなのだという。まるでサカサマに太宰は、借金300円(現在約20万円)の資金繰りのために、友人の作家・檀一雄を借金取りのもとに残した。「……このことは、檀一雄の『小説 太宰治』の中に記されています」と渡部教授のコメントがあつて、絵とナレーションが巧みに続く。ビデオで再現しよう。

——「必ず戻る。俺を信じろ」と親友を人質として預け、妹の結婚式に向かい走り出すメロス

——「必ず戻る。俺を信じろ」。親友・檀一雄を人質として預け、金策練りに走り出す太宰

……

——3日後、約束通り戻ってきたメロス



係を指摘されて批判されることが多いんですが、真面目な人間です。真面目だから、自分のことをありのまま書いてしまう。作家だから、書いてしまう。私は、そんな不器用で人間に愛情がある作家が好きですね。

太宰は悪く言われることが多いから、私は太宰の弁護士の立場でいます」  
来年4月からは、NHKラジオ「文学探訪」で渡部教授の太宰治講座も始まるそうだ（9月まで）。むろんこれは本格シリーズである。

### 「伊東家の…」 牧野光則教授

「伊東家の食卓」（日本テレビ系）といえば、大人から子供まで幅広い年齢層を対象に、生活に役立つ裏技を紹介している高視聴率番組だ。知的バラエティーとは趣が違ふけれど、科学的な証明部分で専門家登場という点は同じ。

昨年8月3日の放送（関東）で出演したのは牧野光則理工学部教授（情報工学）である。

教授が説明を依頼された裏技は、41歳主婦の投稿。黒の油性ペンで、内側から網戸を黒く塗りつぶすと、網戸を閉めたままでも外側がよく見

える、というもの。網戸を閉めたまま、ガーデニングを楽しんだり、花火などの景色を満喫できるという裏技だ。実際、驚くほどの視界の鮮明さなのだが、科学的にはどうということなのか。

そこで、コンピュータグラフィックス（CG）やプログラミング、回路が専門の牧野教授に声がかかった。FAXで取材依頼があったという。回答は簡単で、まずは直接電話で担当者に裏技の解釈を説明した。

「白い網戸は光を拡散するため、外の景色が見えにくくなってしまいが、黒い網戸にすると光の拡散が起こらず、真つ直ぐ進む光だけが目に入るようにすることができると、外の景色がみえやすくなる」

この説明を、ADさんが具体的に絵や図をつけて書き起こし、それにすこし訂正を加えた図解のフリップが番組で使われた。ここまでは電話とFAXによるやりとり。

収録は6月末、研究室で行われた。テレビの取材を受けるのは、これが初である。取材時の写真を拝見した。記者が話を聞いている今、横に積み重なっている本や書類が写真ではキ

チンと縦向きに並べられている。掃除は大変でしたか？ 「掃除は当日ですよ。1時間くらいですかね。机の周り以外は撮られないと分かっていたいましたし」。髪型などに気を配りましたか？ 「たまたま取材の1週間くらい前に床屋に行きました」。ネクタイは？ 「それは、妻が主導権を握りましたね（笑）。いつもは自分で適当に選ぶのですけれど」

### 撮影1時間、登場5秒

訪れたのはディレクターとADの2人。いろいろ注文もあったらしい。「番組が、あらゆる年齢層を対象としているため、難しい専門的な言葉を使つてはいけません。答えがそれ一つのような断定した言葉遣いをしてはいけません、目線はカメラではなくスタッフに向けて欲しい」などと。教授はADさんに向かって、30秒程度手ぶりを交えてわかり易く、話す速度を変えた説明を3パターンほど収録したそうだ。

で、実際のテレビ場面である。まずは、頭に赤いリボンをつけた「伊東家」のパソコン・P子が裏技の利点を説明。「網戸をしめてしまおうと

ガーデニングが見えにくくなっちゃう……。かといって、網戸を開けると虫が入ってきちゃいますよね」。そして、裏技を投稿した主婦の送ったビデオテープの映像が流れた。内側の網戸の上から、はてなマークで隠しながら裏技をし、裏技前後の差をアピール。「網戸を、黒いペンで塗つただけでこんなに向こうがきれいに見えるようになりますよ」と投稿者は得意げな顔をしている。

そこで、牧野教授。大学名と教授名が出たけれど……その時間は、なんと約5秒。解説の映像に切り替わった。撮影はかれこれ1時間かかったのに……1秒の影に720秒ありである。

「伊東家」では、その裏技を父、四郎が評価する。NHKの「のど自慢」のように、鐘がいくつなるかで評価が決まる。結果は、♪チャラララ・チャラララ・チャンチャンチャン。裏技としてパーフェクトな評価だった。

放送前に編集ビデオをみる機会はなく、放送当日が初見。だから、番組でのゲストが大物女優・泉ピン子だったことも、泉ピン子が、「もしかししたら、この裏技をすると隙間



収録時、番組スタッフと打ち合せ中の牧野光則教授

から力が入りやすくなるかもしれない？」とボケて、四郎の娘・美沙に「網の目の大きさは変わらない」とツッコまれるやりとりも、「楽しんで見ることができました」。

翌日には、何人もの学生から「私、『伊東家』見ましたよ」と声をかけられ、意外な人物からも連絡が。10年以上も会っていなかった従妹。従妹は、まさに「伊東家」のねらう視聴対象びつたりの、子供のいる家庭。親子で番組を見ていたら、知っている名前と記憶のある顔が……と

驚いたらしい。

## 大学教授のホンネ

とはいえ、教授は「伊東家」取材に「まわりくどき」も感じていたそう。じつは、内側が黒く外側が白っぽい網戸は実際に販売されているという。内側が黒いため、外の景色が見え易く、かつ外側が白いためしっかりプライバシーを保護できるというすぐれもの。「網戸メーカーに聞けば早いじゃないかと内心思いつつ、」でも、それでは番組が面白くならないですけれどね」と笑いながら打ち明け話。

ある意味で、牧野教授は「伊東家」タイプの先生である。「いろいろな人に対して、工夫を凝らしながらいろいろな説明をしていきたい」と、大学祭では小・中・高生を対象に研究室のスタンプリリーやサイエンスセミナー（こちらは高校生対象）を開催。ことし8月23日にも「バーチャルリアリティを体験しよう！」というテーマでサイエンスセミナーが開かれた。サイエンスセミナーは、参加者にA-Fコースの中から一つを選ばせ、科学を身近に感じてもらう

うというコンセプトで行っている。「子供の物覚えの早さには驚きます。親の方がもたもたしているくらいです」と話す。

戸井先生もよくテレビに、と話を向けたら、「戸井先生は出演多数ですよ。音を専門とする大学教授は少ないと思います。だから、トイ合わせ」も殺到するんですね」とジョークつきの解説までいただいた。

## 「音」に聞こえる戸井武司教授

というわけで、同じ理工学部の戸井武司教授（精密機械工学）の研究室のドアをたたいた。中に入ると、「CANONスペシャルガウディ・ミステリー」のポスターが目飛びこんできた。スペインの建築家、アントニオ・ガウディが未完成のまま遺したサグラダ・ファミリア教会の完成予想図をCGで作成、84個の鐘で構成されるはずだった鐘の音を再現し、ジブリ映画の音楽提供で有名な久石譲さんがその鐘の音で演奏するという特別番組。戸井教授は「鐘の形をどういうふうにするか、どんな音色になるのか」という音響シミュレーションで協力した。02年3

月の放映（テレビ朝日系）だった。きょうはそれから離れて、バラエティー番組編「所さんの目がテン！」（日本テレビ系）「どうぶつ奇想天外」（TBS系）「噂のどくなってるの」（フジテレビ系）などのゲスト、解説者、そしてデータ提供などを含めるとこれまで出演した番組は20本をこすという。

## 「なぜ？」に答える親心

以下、教授へのインタビュースタイルで。

——— どういういきさつでテレビに出演することに？

「私もよく分からなくて、製作会社がインターネットなどで探してくるようです。正直、ちょっと迷惑というか……（笑）。テレビに映るのは5〜10秒だけど、やっぱり準備や実験に何十倍も時間がかかるからメ리트よりデメリットの方が多岐かもしれません。でも教育研究をする立場からすると、たとえ子供が中央大学にこなくても科学に興味を持ってもらいたいし、子供の『なぜ？』という気持ちに答えてほしいのが親心ですからね」

——動物に関する番組も多いですね。

「最近のバラエティー番組ではけっこう動物を扱うものが多い感じがします。動物が五感である音に反応し、音を利用して生活している様子は意外と知られていないためでしょう。最近、私が取材されているイメージというと一般の家庭の中に科学に興味を持っている、知りたいという要求が高くなっているようです。昔は子供だましの番組が多かったが、ここ5、6年で情報バラエティー番組、情報科学番組がふえていますね」

### サソリのお尻をついたり

——1本の番組で、どのくらいの時間がかかるんですか？

「たとえば『所さんの目がテン!』は、音の分析を学生に協力してもらっても半日から1日かかりましたね。でも、(製作会社が用意してくれる)新しい疑問からものを見えるチャンスもあるし、社会で疑問になっていることを解決する、という流れは企業との共同研究と同じで楽しいですね。ただ、テレビではどう

しても一般受けするように作られているんで事実が多少曲げられたり、最終的に編集されると、こんなこと言っていないのにな、とか、こういうふうには言わないでほしかった、というところが時々あります。専門用語の使い方が間違っていたり……」

——実験結果などは思うように出るんですか？

「動物の実験などだと動物のコンディションによつて反応があんまり出ないときがあるんですよ。だからサソリが砂の振動に反応するシーンでは、ADの方がサソリのお尻を棒で突つついて反応を出させる、といったちよつとヤラセみたいなこと



「所さんの…」台本を手に戸井武司教授

とも無きにしてもあらずですね(笑)。撮る方も早く終わらせたいですしね。だけどわれわれとしては正確なデータを提供することを常に心がけています」

——どの番組が一番印象的ですか？

「まるまる一本、出演時間が約1時間と一番長かったのが『噂のど〜なつてるの』で、朝も早かったし生放送だから緊張もしましたね。一応、台本もあつたけれどけっこう出演者の皆さんがアドリブ的に振つてくるから、言いたいことはあつても『あと何秒です』といったカンペが気になつてしまいました。言うタイミングは分かっていますが、他の人がよかれと思つて急にコメントを振られると逆に……(苦笑)。タレントじゃないんだもの」

——芸能人にも会つたり？

「控え室が石塚さん(ホンジャマカ)の向かいでしたよ。それに司会役の吉田照美さんはやはりプロ。CM中に雑談していたのに終わるとぱつと切り替わる、その切り替えは

すごいですよ」

### ガウディからスズムシまで

——テレビに出ることのメリットは何でしょうか？

「テレビ番組は父親ではなく、家にいる母親受けを狙つて作られている場合が多いのです。番組を見た母親がそれを子供に伝えて、科学に興味を持つチャンスが増えれば近年の理工離れの防止になりますね。テレビは短い時間だけ分かりやすく見せられますから。その見せ方はよく制作会社と議論します。でも事前に放送内容をチェックできないのが問題です」

動物クイズはおもしろいですよ。

たとえば、「クツワ虫の飼い主が手をたたくと鳴きます」(「どうぶつ奇想天外」04年11月)。周波数分析してみると、グラフが鳴き声とほぼ重なる妙なのだ。クツワ虫は仲間の声と勘違いするものらしい。

あるいは「スズムシの鳴き声は電話で聞くことはできない」(「所さんの目がテン!」同9月)。これも周波数に関係し、電話の周波数帯域では伝わらない音だそう。これも

分析データの図などを使って解説した。

ガウディの鐘の音からスズムシまで、音の第一人者は大活躍である。

### 硬軟・多士落々

このほかにも、理工学研究所・熱プラズマ研究センターの岩尾徹客員研究員（フジテレビ系「たけし&マチャミの世界に誇る日本の技術に驚いてみませんか? スペシャル」04

年9月）、理工学部・佐藤博彦助教（日本テレビ系「『ハリ・ポッター』の世界へ出発! 楽しく観る7つのキーワード」スペシャル

同6月）、同・諏訪紀幸教授（「トリビアの泉」同4月）ら、出演機会が増えている。

ここでは触れなかったが、ニュース報道番組など「硬派番組」では、コメンテーターとして登場する教授

らは多い。03年施行された住民基本台帳法や個人情報保護をめぐる問題では、法科大学院・堀部政男教授が

新聞・テレビに再三登場、ことし春先のライブドアVsフジテレビ・ニッポン放送買収騒動の折は、法科大学

院・野村修也教授、大杉謙一教授が

別々のテレビ局に連日連夜の出演、野村教授はいままた村上ファンドVs阪神、楽天VsTBS買収劇のぼつ発で出演の日々だ。

教養番組では、理工学部・加賀野

井秀一教授（言語論）がNHK教育テレビ「日本語なるほど塾」に、04年8月のゲストとして出演、意外性や楽しさに満ちた「日本語」超「進化論」は反響も大きかった。

### 「雑学」いいか、へんか

ところで、知的バラエティー番組が提供する「雑学」。「トリビアの泉」ははじめから「役に立たないムダ知識」と宣言するすがすがしさだが、「雑学」ブームをどう見たものだろう。

戸井教授はこういう。「今のテレビは主婦や小中学生向けに作られているので、やはり大学生は本やネットですらで自主的に勉強して欲しいですね。科学的にモノを筋道立てて考える視点が重要なんです」

先に紹介したガウディの番組でも、教授の音響分析をもとに、「ガウディの望んだ音がしっかりと再現された」と続くナレーションに対しては、「死んだガウディが本当に望んでいた

かどうかなんて分からない。そうでしょう?」と戸井教授。

やや「懐疑派」のニュアンスとすれば、渡部教授は「雑学のすすめ派」である。

「ムダな知識なんてないと思つています。全ての知識が生きていくうえで、何かしらの影響を与えるだろうと。私自身、ムダ知識大好きです。好奇心旺盛で、いろいろなことに挑戦するので、ムダ知識は豊富ですよ」

### お願い! 先生

実際、「トリビアの泉」のそのまた「トリビアの種」なるコーナーの手間暇かけた番組づくりの情熱には驚くばかりである。10月19日放送分では、「クリップをつなぎ合わせると何メートルで切れるか」を、宮崎県日之影町の天翔大橋で実験挙行。町長さんも県警も挙げて協力するなか、143メートル下の底に着いてもなお切れず、ついには巨大クレーン車を繰り出しカサあげして2日間かかり。クリップの数にして5495個、154メートルに達した瞬間、クリップがはじけ飛ばさずは、シュールな映像美さえたたえて感動的だった。

た。それがどうした、といえればそれまでの、壮大なムダゆえの不思議な感動である。また「世界で一番受けたい授業」（日本テレビ系）には「バカの壁」の養老孟司東大名誉教授も登壇したりと、バカにできない。高度に、洗練された番組競争になつているのも特徴だ。

そうなると、ちょっとした演技力や芸を披露する学者にもお目にかかることになる。これもいつぞやの「トリビア」だが、△「カオリン族カオリンナイト」という石がある▽とかで、登場した某国立大学教授の解説は、ディスコに乗りこんでカオリンたちと踊りながらというノリようだった。

その点でいえば——わが中央大学の先生たちは、やはりまじめで実直よね、と学生記者3人の声は一致した。むろん中央大学らしくてイイのだけれど、出演の際は先生、もう少しリラックスして、プラスαの味わいもみてみたい……などとお願ひしたら、お叱りを受けるだろうか。

（取材担当）

渡部芳紀教授△岩倉▽牧野光則教授△池内▽戸井武司教授△大池